

たのしかった

# ホンダ夏まつり

## 未体験ゾーンへようこそ



ホンダ研友会主催の夏祭りが8月4日(日)に開催され、こぶし・けやきから仲間・職員・保護者合わせて16名が参加しました。当日は、開始時刻の1時間前に会場へ到着しましたが、もうすでに、広大な芝生の会場はたくさんの方々が加わって埋め尽くされていました。私たちは、会場の真ん中あたりに大きなテントの一角に場所をとり、まずはたくさんある模擬店から自分の気に入った食べ物を選び、飲み物片手に腹ごしらえをしました。すると何処からか勇壮な太鼓の音が、芳賀浪漫太鼓が会場に鳴り響き祭りの始まりです。祭りが進行している間、ホンダの担当社員の方が、丁寧に会場を案内してくれました。芝生広場にはメインステージと模擬店が中央にあり、周囲をミニS-Lが走り、子供たちが大喜びで乗っていました。



また、ホンダの自動車が展示販売してあったり、ラジコンカーのコースでは、ラジコンマニアがレースを競っていました。別の会場ではペットボトルのロケットを飛ばしたり、F1レースに出場したり、F1レーサーに出場したり、車が展示されていて、時々お腹に響くエンジン音を轟かせていました。会場を案内していらついでに、いよいよよテストコース試乗のコーナーへ。招待された他の施設の人達と順番待ちをしている間、コースを走る車を見ていると、時速100キロ位で大したことないと思っていました。いざ、高級車レンジェンドに乗り込み、余裕のあるプロドライバーの話しに安心して耳を傾けています。なななんと！スピードメーターの針は80キロを指しているではありませんか。そして、そのままのスピードでバンクに入ると、車と壁との間隔が50cmもなく、その恐怖と緊張で車内は静かになりました。コースを2周して車から降りると、めったに体験できない世界を味わった興奮と安堵感でいっぱいでした。その後は、夕方の抽選会まで模擬店でおいしいものを買いブラブラしました。残念ながら抽選はハズレとなりましたが、皆楽しい思い出を胸に家路へと着きました。貴重な体験も含め、楽しい夏祭りに招待くださったホンダの皆様には、心より感謝申し上げます。

## おまたせしました!

- 10がつのこよみ
- 4(金) ボリショイサーカス招待
  - 5(土) 休所日
  - 6(日) "
  - 10(木) "
  - 12(土) 職員会議 (バザー準備)
  - 13(日) チャリティーバザー
  - 14(月) TEPCO ふれあいフェア作品展 10/29(火)まで
  - 19(土) 休所日
  - 20(日) " (バザー準備日)
  - 26(土) 職員会議
  - 27(日) 休所日
  - 31(木) 家族旅行 in 伊東
  - 1/1(金)

(田島)

# みんなで大地

10月の空をふらふらと飛ぶあの鬼やんまは、そろそろ不惑の年である。不惑というのは、そろそろあと(自分の人生の結末)が見えてくる頃で、人生のやり直しが利かないという切羽詰まった立場を言うのだろうか。惑わずではなく、惑っている暇がない、とにかく定年までは頑張るしかないという観念したところが色濃いい。もちろん、非行に走ることもできるが、あまり格好のいいものではない。その点、青年たちは何をしても絵にならぬ。恋・人生・一生を賭けるに足りる仕事のこと。それらが失敗しても、中途半端でも輝いて見える。それは、青年の前に広がる年齢という大きな可能性が、そう見えさせるのだと思う。大人たちが「前向きな生き方こそ若さの印。」と、一生全て青年期のように言うのは、認識不足・年寄り

の冷や水に他ならない。さて、この青年期は人間の歴史を通じて存在したわけではない。若ければ、青年期の必要十分条件がそろったと言えないようである。そこには経済的な豊かさや基礎的条件として必要らしく、青年期という時代はすぐれて現代が産み出した文化なのだ。それ以前はというと、幼児期・少年時代から促、成人期に突入してしまっただ。つまり、落胆したりする暇は全くなさく、稼ぎ手として社会に送り出されてしまった。前置きはこれくらいにして、この頃が重いことがある。それは「障害者の青年期」に考えをめぐらすことである。こぶし作業所の仲間も含めて、障害者が「恋・人生・一生を賭けるに足りる仕事のこと」に、思いっきり青春の炎を燃

やしているだろうかという事である。恋や人生どころか、日常の生活さえ自己決定できないのが現実だろう。精神的自立・経済的自立が、障害者の青春の前に越えなくてはならないハードルと論じられる。本当にそうなのだろうか。生まれきた甲斐という言葉があるが、そのことを見つけて、感じられるようになるには、恋や人生に失敗したり情熱を燃やしたりする長い青年期がそれを発見する保障となるのではないだろうか。精神的自立・経済的自立をクリアーできなければ、生き甲斐なんて生意気なのだろうか。

悩み多き仲間たちを目の前に見ていて、手をこまねいている自分に憂鬱になる。

(鬼やんま)

TEPCO ふれあいフェア作品展。ごあんない

こぶし作業所

1996.10/14(月)~10/29(火)

この展覧会では、TEPCOのふれあいフェアにおいて、多くの方に障害者への理解を深めていただく機会と、県内の施設・作業所などで制作された、手工作品の展示・販売を行います。こぶしも参加することになりました。ボランティアの皆さん、保護者の皆さんにもご協力をお願いいたします。お申し込みは、お電話でお問い合わせください。

TEPCO La FONTE アトリウム・アトリエ (東電)

〈主催〉 東京電力株式会社栃木支店

〈展示作品〉 リース・さざり織り・タペストリー・藤工芸・ハーフ・手織り・セリカガキ・竹炭・茶・手作り石けん 他多数 パネル展示もありました

場所

ホウシのボエムは、今回お休みさせていただきます。次回11月3日に掲載する予定です。

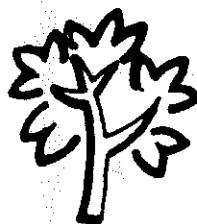
**こぶしだより**

1996年10月1日(火)

第196号

発行所  
こぶし作業所  
宇都宮市柳田町1401  
☎0286(62)1911

# 98年4月 けやきは 大きくなりました



もうすでにお知らせしたように、けやき作業所の施設拡充計画も着々と進められています。県との事前協議の中からでてきたデイサービスセンター付帯の件も、新たに計画に組み込まれ、新しい「けやき作業所建設計画書」もできあがりしました。先の計画書に比べると、建物の大きさ、事業費、事業内容等、大きく変更されました。

新しい計画書の概要は、次のとおりです。

《施設の名称》  
今まで愛称で呼んできた「けやき作業所」(正式名称:こぶし作業所芳賀分場)を、正式名称にします。デイサービスセンターは、まだ名前がついていません。皆さんで良い名前をつけて下さい。

《入所者定員》  
けやき作業所は現在の15名から15名増え、30名定員となります。

入所希望の方は、けやき作業所は福祉事務所に、デイサービスセンターは役場の福祉課に早めにご相談下さい。

《職員定数》  
けやき作業所は専任職員が9名、パート職員(指導員)1名の合計10名による職員体制となります。現在4名の職員体制から2倍以上も増え、より一層手厚い処遇が可能となります。デイサービスセンターの職員は、指導員・介助員5名の専任職員が配置されます。

《建物の構造・面積》  
鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建、現在の建物と同じ構造です。又、けやき作業所とデイサービスセンターとを、同一建物内に専用部分と共用部分を設けます。建物面積は

6866㎡(208坪)既存の建物260.8㎡(79坪)に比べると2.5倍強、かなり大きな建物となります。

《建設費》  
気になる建設費ですが、本工事業費・冷暖房設備工事費・浄化槽設備工事費・既存施設改築費等、合わせて1億3250万円、備品費が3450万円、土地購入(現借地部分)費が500万円、総計1億7700万円となります。

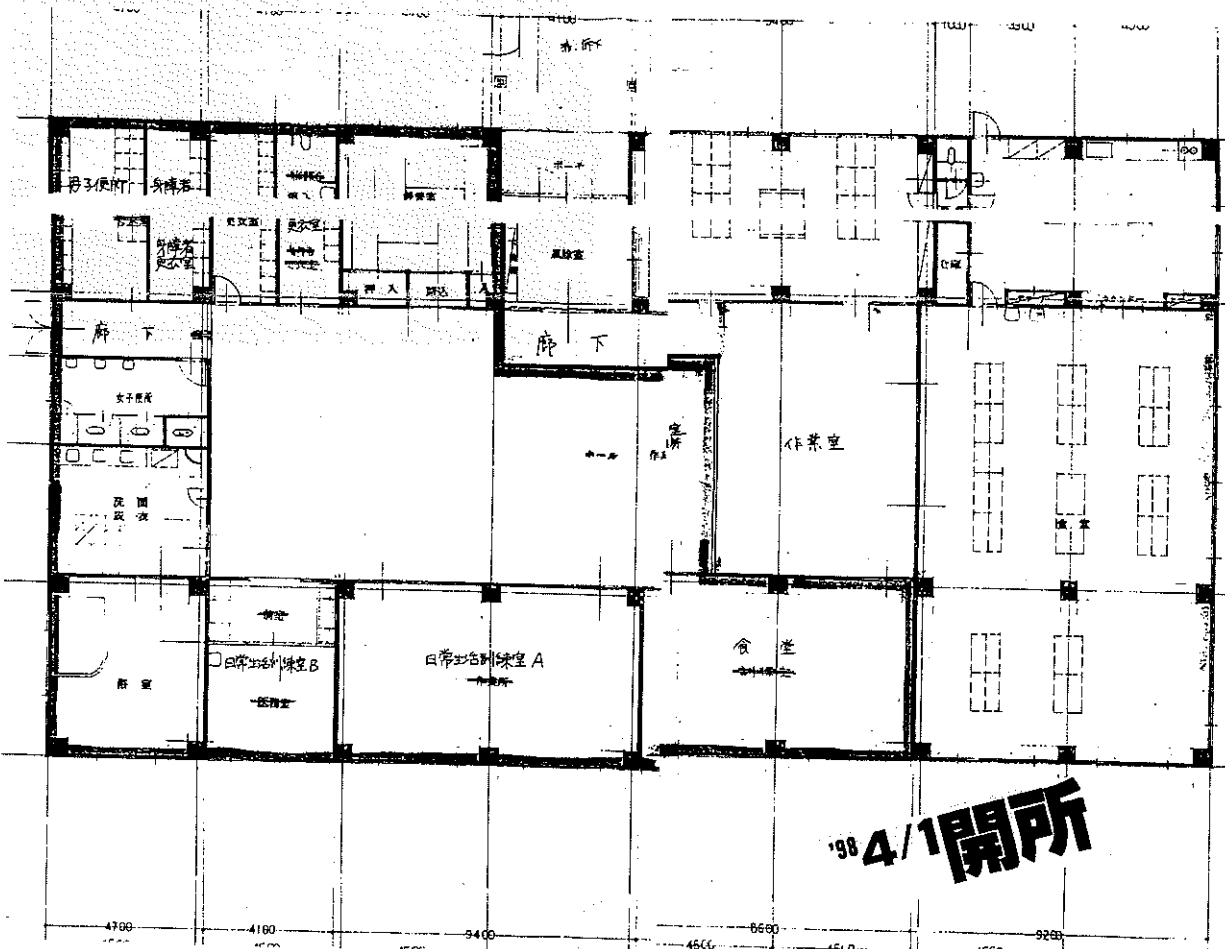
《財源》  
国庫・県費補助金で1億600万円と、共同募金で400万円、芳賀郡市町から250万円の補助金を予定しているの、差引4200万円が自己資金となります。

《自己資金の調達》  
建設募金(一口3千円)のお願いの他、コンサート・映画会等、事業活動を精力的に展開して行きます。

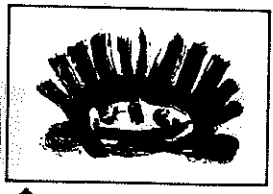
皆さまのご支援をお願いします。

けやき作業所は、平成5年4月に開所して以来、仲間15名・職員4名の家族的な集団として、明るくたくましく活動を展開してきました。今後さらにけやき作業所がその名のとおり、大きくたくましく育つよう、また、芳賀郡の障害者の皆として、明るく親しみやすい施設の実現に向けて頑張っていくつもりです。

皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



98年4月1日開所



(成田)

も けやきくんす!!

### 寄附金募金

期間 1996年1月～1998年4月  
募金額 1口 3,000円  
何口でも可  
振込先  
郵便振込 00330-9-42959  
「けやき作業所後援会」

どうぞよろしく  
お願い致します!!

銀行振込 足利銀行芳賀支店  
口座番号 2682661  
「けやき作業所後援会」  
建設委員会  
代表 青山 実

